

特集

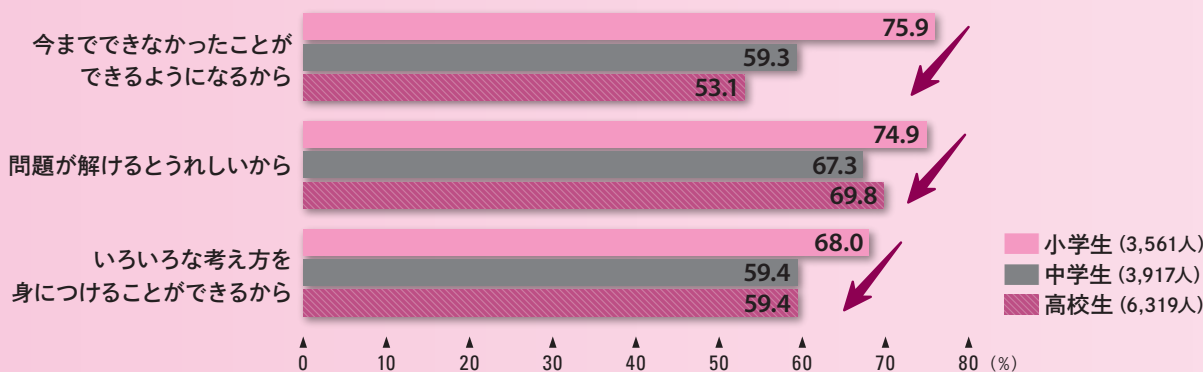
変化を生き抜く「軸」と「修正力」の育成②

動機と型の質的転換を図る教科指導

学習においても、目標や目的、信念、こだわりといった「軸」があることで、学習を力強く進めることが出来る。また、授業進度や自身の学力の変化、学習内容の質的・量的変化への対応力、すなわち、「修正力」も求められる。そこで今号では、教科学習における「軸」と「修正力」、そしてそれらを育むために必要な指導について考えていく。

学校段階が上がるに連れて、低下する学習への内発的動機

Q. あなたが勉強しているのは、どうしてですか。勉強する理由について、お答えください。



注) 「とてもそう」+「まあそう」の割合(%)。選択肢は「とてもそう」「まあそう」「あまりそうでない」「ぜんぜんそうでない」の4段階。
出典/ベネッセ教育総合研究所「第2回子ども生活実態基本調査」(2009)

8~2月号の共通テーマ

10年後を見据えた人材育成

8月号で
見えてきたこと

- ◎今後10年間も、変化の激しい社会であることが予想される
- ◎そのような社会を生き抜くためには、自分の中に、変化に流されない「軸」（目標や目的、信念、こだわりなど）を持つこと、そして、その「軸」に基づいて柔軟に変化に対応する「修正力」が求められる

本号のテーマ

教科学習において、生徒の中に「軸」を育み、「修正力」を高めるために必要な指導とは？

求められるのは、学習の「軸」となる“学習動機”と 学びや思考の“型”を質的に転換させる指導



「教師には、教科の専門性を土台に、どんな力を付けさせたいかをデザインした上で、生徒主体の活動を通して一人ひとりが成長の実感と自己肯定感を得られるようなファシリテーターとしての役割がますます求められる」

福井県立若狭高校定時制教頭
中森一郎

▶卒業生が振り返る【P.6~7】

「生徒の中にやらされ感を募らせないためにも、確かな学習の成果が必要」

栃木県立黒磯高校教頭 齋藤良則



「低次の思考と高次の思考の両方を必要とする授業を低学年次から目指す」

福井県立高志高校 山内 悟



「生徒同士が“仲良く”切磋琢磨して学び合う環境を整えてやるのが大切」

愛知県立成章高校 鈴木孝育



「厳しい状況の中で踏ん張り、何かを成し遂げる成功体験を学習においても積ませたい」

三重県立四日市南高校 中村陽明

▶座談会【P.8~11】

茨城県立竹園高校

【P.12~15】

プロジェクト型英語学習

◎今の学習と将来の自分との関連や、毎日の授業の積み重ねがどのような成果に結び付くのかを、入学時にしっかり説明する

◎生徒に考えさせる発問や創造力を発揮したくなるような課題を与えることで、自分の考えを持つように求めると共に、学び合いや発表を通じて、多様な考えに触れさせ、考えに幅と深みを持たせる

島根県・私立松江西高校

【P.16~19】

基礎学力の養成

◎達成感を味わわせやすい「基礎力養成」「学び直し」「語彙力養成」にまずは強制的に取り組ませる。その中で「分かる」「出来る」という自己肯定感を持たせ、学習動機を「もっと学びたい」といった内発的動機に転換させる

◎学習動機の転換が起きなかった生徒に対しては、教師がじっくりと見守りながら、小さな成功体験を積み重ねていく中で、次なる生徒の変化を待つ

熊本県立済々黌高校

【P.20~23】

「論理性」を重視した現代文指導

◎現代文の学習の軸を「論理性」に置き、それに基づいた現代文の学習方略の修正を、入学時から行う

◎授業や課題において、論理的な読解が出来ているかを問う設問に何度も取り組ませる中で、論理的な思考の型に気付かせる